

富津市創生会議 会議録

1 会議の名称	令和7年度第2回富津市創生会議
2 開催日時	令和8年3月27日（金） 午前10時から12時10分まで
3 開催場所	富津市役所1階 大会議室
4 審議等事項	（1）第3期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について （2）第3期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画（2026年度当初予算版）について
5 出席者名	富津市創生会議委員（13名） 飯田 裕美、石村 比呂美、梅内 泉、岡田 亮介、 川名 仁、小泉 晴信、小嶋 友子、笹生 一樹、 島野 勝弘、平野 雅基、松井 小百合、宮川 由佳、 山内 義実 事務局（8名） 市長 高橋 恭市、副市長 中山 正之、 企画政策部長 阿部淳一郎、企画政策部次長 佐藤 慎也、 企画課長 三木 貴好、企画課長補佐 山下 知哉、 企画課主事 石井 彩里奈、企画課主事 安田 竣汰 事業担当課（42名）
6 公開又は非公開の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当 (理由)
8 傍聴人数	0名（定員5名）
9 所管課	企画政策部企画課企画係 電話 0439-80-1223
10 会議録（発言の内容）	別紙のとおり

上記会議の経過を記載し、事実と相違ないことを証するためにここに署名する。

富津市創生会議 会議録

発言者	発言内容
事務局	皆さん、おはようございます。 定刻となりましたので始めさせていただきます。 委員の皆様方におかれましては、本日はご多用のところお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。 開会に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。 まず、本日机上に配付いたしました資料の確認です。 ○会議次第 ○席次表 ○創生会議委員名簿 ○市出席者一覧表 ○創生会議設置要綱 次に、事前に送付させていただきました資料の確認です。 ○令和7年度第2回富津市創生会議について ○【資料1】第3期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について ○【資料2】第3期総合戦略新旧対照表 ○【資料3】第3期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画（2026年度当初予算版） 以上が本日の資料でございます。 お揃いでしょうか。 ・・・（不足資料がないか確認）・・・ 1 開会
事務局	それでは、ただいまから令和7年度第2回富津市創生会議を開会いたします。 はじめに、本日の委員の出席状況を報告させていただきます。 14名の委員のうち、鈴木委員からは遅れる旨のご連絡をいただいておりますので、出席委員13名でございます。 したがいまして、富津市創生会議設置要綱第6条第2項の規定により、半数以上の出席をいただいておりますので、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。 続きまして、会議の公開についてご説明申し上げます。 本市情報公開条例の規定によりまして、市民等の意見を市政に反映させるために設置する会議で、市民等が構成員に含まれている会議については、法令等に特別の定めがある場合を除き、公開することとなっております。 なお、本日は傍聴者がいないことをご報告いたします。 また、会議録作成のために録音させていただきますので、ご了承いただきますようよろしくお願いいたします。

	2 市長挨拶
事務局	それでは開会にあたりまして、高橋市長からご挨拶を申し上げます。
高橋市長	・・・(挨拶)・・・
	3 会長挨拶
事務局	続きまして、梅内会長からご挨拶をお願いいたします。
梅内会長	・・・(挨拶)・・・
事務局	ありがとうございました。 これからは、富津市創生会議設置要綱第6条第1項の規定により、会長に議長となつていただき、進行をお願いいたします。 梅内会長、よろしくお願いいたします。
梅内会長	はい、ありがとうございます。 それでは進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。 まず、本日の会議録の署名委員を指名させていただきますが、本日は岡田委員と小嶋委員をお願いします。よろしいでしょうか。
岡田委員、 小嶋委員	はい。
梅内会長	ありがとうございます。
	4 議題（1）第3期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について
梅内会長	それでは早速でございますが、議題（1）第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定についての議論に入りたいと思います。 事務局の説明を求めます。よろしくお願いいたします。
事務局	着座にて失礼いたします。 それでは、議題（1）第3期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定についてご説明いたします。 資料1をご覧ください。 はじめに、「1 改定の趣旨」についてですが、今回の改定は第3期総合戦略に掲げる施策を推進するにあたり、2026年度における新規事業等で、当該施策の推進に資するものを追加しております。 次に「2 改定内容」については、事業の追加と裏面がございます、デジタル技術を活用した取組の追加となっており、具体的な内容は、第

	3期総合戦略新旧対照表により、ご説明いたしますので資料2の2ページをご覧ください。 基本目標2に掲げる「基本的な施策の方向①自慢できる地域力を高める『施策7：地域の皆がいつまでも安心して元気に暮らせるための活動支援及び各種けんしんの充実』における行政の取組に赤字で記載のとおり「成年後見制度利用促進体制整備事業」を追加しております。 次に、3ページをご覧ください。 同じく基本目標2に掲げる「基本的な施策の方向②地域の魅力をより多くの人に伝える『施策1：地域の魅力を再発見し、その魅力を地域内外の人々に発信することによる地域への愛着の醸成』における行政の取組に赤字で記載のとおり「内裏塚古墳群保存整備事業」を追加しております。 次に、5ページをご覧ください。 基本目標4に掲げる「基本的な施策の方向①くらしやすい環境を整える『施策2：道路、公園等のインフラの計画的な整備及び適正な維持管理』における行政の取組に赤字で記載のとおり、「青堀駅周辺環境整備事業」を追加しております。 次に7ページをご覧ください。 第3期総合戦略では、基本方針の1つに、「デジタル技術の活用」を掲げ、「市民向けサービス」「行政事務の効率化」「地域課題の解決」の3つをデジタル技術活用の軸として定め、DXの推進に取り組んでいくこととしております。 今回の改定では、「行政事務の効率化」の項目にDX分野への外部専門人材の登用および警防活動へのデジタル技術の活用として、赤字で記載のとおり、新たに2つの取組を追加しております。 なお、警防活動へのデジタル技術の活用については、これまで8ページの「地域課題の解決」に位置づけておりました、警防活動運営事業を「行政事務の効率化」の観点から整理し、警防活動へのデジタル技術の活用として移行しております。 以上が、改定内容でございます。 説明はこれで終了とさせていただきます。
梅内会長	はい、ありがとうございます。 ただいま事務局から改定についてのご説明がございましたが、委員の皆さまから何かご質問ございますでしょうか。 はい、岡田委員お願いいたします。
岡田委員	ありがとうございました。 説明のあった成年後見制度利用促進体制整備推進事業を基本目標2に追加するということについて、総合戦略は人口減少抑制に向けての計画だと思っておりますが、この事業を追加することと人口抑制はどのような関係があるのでしょうか。
梅内会長	事務局からよろしく願いいたします。

事務局	お答えいたします。 本市の総合戦略は、合計特殊出生率の向上、転入の促進及び転出抑制により、総合的に人口減少の抑制を図るものとなっております。 そのため、直接的に人口の増減に影響する施策に限らず、成年後見制度利用促進体制整備推進事業のように、高齢者や障害のある方などの生活を支える基盤を整えとともに、その家族の負担軽減にもつながる取組により、安心して暮らし続けられる環境づくりに資する事業についても、転出の抑制、定住の維持につながるものとして、必要な施策に位置づけております。以上でございます。
岡田委員	ありがとうございました。
梅内会長	ありがとうございます。その他ご意見、ご質問ございますでしょうか。よろしいでしょうかね。 それでは他にご意見ないようですので、以上で議題（１）の第３期まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定については終了したいと思います。ありがとうございます。
	４ 議題（２）第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画（2026年度当初予算版）について
梅内会長	それでは引き続きまして、議題（２）第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画（2026年度当初予算版）についての議論に入りたいと思います。 事務局の説明を求めます。よろしくお願いいたします。
事務局	議題（２）第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画（2026年度当初予算版）についてご説明いたします。 着座にて失礼いたします。 資料３の１５ページをご覧ください。 今回策定いたしました当初予算版の実行計画は、昨年度末に策定した2025年度当初予算版の実行計画について、年度別事業内容、事業の自己評価、事業成果等を、2026年度当初予算を反映した内容に更新し、取りまとめたものとなっております。 昨年度から変更となった箇所は、原則として赤字で表示しております。 次に、シートの一冊下、事業成果欄をご覧ください。 成果指標は、本年度の取組に対し、その達成状況をＡからＤの４段階で評価しておりますが、現時点では把握可能な実績や見込みに基づき評価を行っております。 なお、現時点で評価が困難な指標につきましては、「2026年度に評価」と記載し、本年１０月上旬に開催予定の創生会議において、2025年度事業評価報告書としてお示しし、ご意見等をいただく予定となっております。

梅内会長	続きまして、資料の 22 ページをご覧ください。 シートが一番下、今年度の達成状況がD評価の事業については、目標達成に向けた取組内容を事業の自己評価欄に記載し、赤字で表示しております。 実行計画につきましては、委員の皆様からいただいたご意見等を踏まえ、今後の事業の見直し等に反映してまいります。 以上で説明を終わります。
川名委員	ありがとうございます。 ただいま事務局の説明が終わりました。 それでははじめに、基本目標 1 と基本目標 2 についてのご意見を願いたいと思います。具体的には資料でいいますと、15 ページから 82 ページの部分までですね。ご質問がございましたら、お願いできればと思います。 では、川名委員お願いいたします。
梅内会長	お願いします。 今、22 ページのお話がありまして、富津市の喫緊の課題として、人口減少をいかに抑制させるかということはあると思いますが、児童育成支援拠点事業は、まさに自治体が取り組む事業として意義のあるものだと思います。いろいろ養育関係に課題があるお子さんの安心安全な居場所の提供、食事の提供、学習の支援など本当に大事な事業であると感じます。 この事業について二点お伺いします。簡単な内容についてはこちらの資料に記載してあるのですが、具体的にどのような活動を行っているのかが一点、それから二点目ですが、先ほど達成状況はDだとおっしゃられていたのですが、目標 22 人に対し実績が 10 人ということですが、せっかく意義のある事業なので、目標値に対し実績が下回っている要因について、そもそも周知が足りなかったのか、もしくは周知はしっかりしていたが実際の手続きが煩雑で利用に結びつかなかったなどいろいろな要因があると思いますが、どのように分析して、今後どのように改善していけるのか、そのあたりをお聞かせいただければと思います。
こども家庭課	はい、川名委員ありがとうございます。 それでは担当部局の方から何かありますでしょうか。お願いします。
	ご質問ありがとうございました。お答えさせていただきます。 本事業は、児童福祉法に基づき、様々な事情から学校や家庭に悩みを抱える学齢期の子供を対象に、平日の日中に過ごせる居場所を提供し、生活習慣作り、学習のサポートを行うもので、市内の社会福祉法人が運営する施設において令和 6 年 12 月から実施をしております。 一点目の具体的な活動内容でございますが、運営施設においては午前中に元教員などの資格を有する支援員の指導によりまして、学年に応じ

	た読み書き、計算、漢字などの基礎的な学習やNHKの学習教材を用いた道徳教育等を行っております。 午後については、課外活動といたしまして、日によって様々な活動を行っております。 一例を挙げますと、陶芸やお菓子作り、公園遊びや店舗での買い物体験といった活動を行っております。 一方、市の方では虐待やネグレクト等により、不適切な養育環境にある要保護児童、将来的に虐待につながるおそれのある、いわゆる要支援児童の情報を学校などの関係機関と情報共有をする中で、本事業による支援が必要と考えられる家庭に対して、個別に家庭訪問をするなど、利用を促す活動を行っております。 二点目の要因については、当事業による支援を必要とされるご家庭が想定していたよりは多くはないというところが主たる要因だと捉えております。 目標値の設定にあたっては、本市の学齢期の児童数に対して、児童虐待や養護相談の対応件数等をもとに、この程度利用されるであろう数として設定をしたところですが、例えば不登校の児童生徒さんへの対応としては、各学校において復学に向けた適切な声掛けをいただいているほか、不登校児童生徒の社会的自立に向けた支援を行うための学びの場である教育支援センター「さわやか教室」がその大きな役割を担っていることも一因というふうに捉えております。 しかしながら、本事業による支援を必要とする児童が現に存在していることから、こうした子供たちが適切に利用に結びつくように、引き続き個別アプローチ等を通じて周知を図ってまいりたいと考えております。以上でございます。
梅内会長	はい。ありがとうございます。川名委員いかがでしょうか。
川名委員	ありがとうございました。
梅内会長	では、続きまして島野委員お願いします。
島野委員	前回欠席だったので、議論済みであったら申し訳ないのですが、確認させていただきたいと思います。実行計画自体が総合戦略のK P Iに対してどのくらい達成できたか教えていただきたいというのと、実行計画のK P Iを達成することで、総合戦略のK P Iが達成できる見込みになっている計画なのかというところを教えていただけると助かります。
梅内会長	はい。ありがとうございます。 それでは、担当部局の方よろしくお願いします。
事務局	よろしくお願いします。ご意見ありがとうございます。 島野委員からご意見いただきました今回の当初予算版がK P I 達成に向けてどうかというところですが、当初予算版につきましては今回ご説

	明させていただいて、1年間の成果を翌年度の決算時期に事業報告をさせていただくようになっております。 設定としましては、実行計画の事業を全庁で進めて、実行計画のKPI達成に向けて取り組むことで、総合戦略のKPI達成を目指しているところですが、その答えになるかどうかというところではあります。当初予算版を策定するにあたっての令和7年度の達成状況見込みについてご説明をさせていただきます。 全体で163の指標がございます。実績の見込みとしてはA評価が71件、B評価が34件、C評価が13件、D評価8件で、その他判明できないものが37件ございまして、現状ではA評価が4割を超えているところではございます。 見込みですので、また改めて10月上旬に開催予定の創生会議にて、今年度の評価報告をさせていただきたいと考えております。 またそちらでご意見も頂戴できればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。
島野委員	お答えありがとうございます。 ひとつ確認なのですが、細かい目標値とこの実行計画に入っている目標値という項目がリンクしているのでしょうか。
事務局	お答えいたします。 本日机前にお配りしております第3期総合戦略は4年間の実行計画になっておりまして、基本目標ごとに大きな目標を掲げております。 例えば冊子の6ページ、「基本目標1 子供の笑顔があふれるまちへ」で言いますと、こちらの全体の数値目標としましては、子育てしやすいと感じる世帯の割合、市民アンケート調査の結果、計画策定時に26.9%だったものを、計画終了時に29%まで持っていきたいというところで、こちらの成果を上げるために、各実行計画に掲げている事業を個別に進めていくというように位置付けております。 同じように基本目標2、3、4の計画も進めていきたいと考えております。以上でございます。
島野議員	わかりました。計画の立て方としては、総合戦略と実行計画がリンクしているものと考えます。 アンケート調査は毎年やるわけにはいかないと思うので、アンケートによらない指標については、今年度数値が出てくると思います。そうすると2023年度から2028年度までにここまでいったというのが見えてくるかと思しますので、どこかの資料にPDCAと書いてありましたので、そのあたりをやっていってほしいなと思います。
事務局	ご意見ありがとうございます。補足させていただきます。 資料の16ページをご覧くださいませでしょうか。 下段の事業成果のところに成果指標が3つあると思います。

	例えばその一番上の「ふつつ子育てきずなLINE新規登録者数」については、第3期総合戦略の基本目標1に掲げており、このように概ね25程度ですが、出せるものについては事業シートの方に掲載して連携するようにしております。 以上でございます。
島野委員	ありがとうございました。
梅内会長	はい、ありがとうございます。 その他、基本目標1、2に関連してご質問ありますでしょうか。 はい、平野委員よろしくお願いします。
平野委員	おはようございます。よろしくお願いします。 全体的な話をまず一点させていただきます。 今、島野委員からKPIの話が出ましたが、そもそもこの資料で気になったのが、KPIの設定がよくわかりませんでした。 例えば実行計画の一番最後のページの空家バンクでいうと、前回私が空家バンクを知らなかったのでいろいろとお伺いしたのですが、少し読み上げます。 目的、手段とありますが、目的と手段というのは、ゴールを達成するための階段があって、その階段を登る方法だと思っています。 目的に、富津市空家バンクへの物件登録並びに登録物件の購入及び賃貸を促進し、市への移住・定住人口の増加を図り、もって市の活性化に寄与するって書かれています。 単純にですが、目的をざっくり箇条書きすると、空家バンクに物件登録して、その物件が購入されて賃貸されて、最終的に移住定住の数はどうなのか、この三点だと思っています。 それに対する手段が、登録物件増加が必須であることから所有者に対して空家バンク制度の周知を図るとともに、相談のあった空き家の調査を実施する、登録された物件についてホームページで周知すると書いてありますが、目的が3つに対して手段が足りないと考えています。また、ページの最後に事業の自己評価と事業成果がありまして、ここが書かれてないのは致し方ないと思うのですが、目的に対して最低3行が必要ではないかと感じています。 要は登録数がどれぐらいで、購入・賃貸の数がどれぐらいで、移住数がどれぐらいというのを書いた方がいいのかなと思います。 なので、その上の自己評価のところで書いてありますが、これは事業自己評価と事業成果というものの行がそもそも逆で、結果に対しての意見を述べているだけで表としては成り立っていないのかなと、この全資料を見て思いました。正直言うと7割ぐらいが目的、手段、結果、それに対する評価というのが、整合性というか、リンクしていないと感じましたが、委員の方は読んでどう思いましたか。 少しそれが気になりました。

梅内会長	はい、平野委員ありがとうございました。 基本目標４のところの例を具体的に挙げていただきましたけど、今回全体の目標設定の話になってくるかと思いますので、基本的な目標設定の考え方など、ご質問に対してのご回答をお願いします。 事務局お願いします。
事務局	ご意見ありがとうございます。お答えいたします。 平野委員のご指摘について、目的、手段それから自己評価と事業成果の整理につきましては、おっしゃるとおりの部分が多いかと思うので、今後10月の会議に向けて、資料の作り方については全庁と協議しながら整理をしてまいりたいと考えております。 以上でございます。
梅内会長	はい、ありがとうございます。 平野委員いかがですか。
平野委員	はい。そうですね、確かに基本目標１の方だったので、例えば19ページのファミリーサポートセンター事業についてです。 目的が子育てを手助けしてほしい人と子育てを手助けしたい人を繋げ、子育てにおける負担の軽減や仕事と子育ての両立支援など、安心して子育てができる環境を整備するとなっているのですが、事業成果の結果欄がB評価になってはいますが、会員登録数となっています。 繋げることが目的なので、登録数はその前段階なのではないかと感じています。 あとは、年度別事業内容というところで2025～2028年まで4年度分記載があると思うのですが、2026年度以降が全部同じとなっているというのが全ページで散見されます。これはどうしてこうなったのか教えていただきたいです。
梅内会長	事務局お願いいたします。
事務局	お答えいたします。 2027年度、2028年度の数値が2026年度と同数になっているというご指摘についてですが、今回ご提示させていただいておりますのが、2026年度当初予算版ということで、2027年度以降の予算がまだ確定しておりません。事務局からの全庁への資料作成の依頼の仕方につきましても、まだ決まっていない部分については当該年度を踏襲するような形で依頼して資料を作らせていただいております。以上でございます。
平野委員	承知しました。 2027年、2028年が空白となっているページもあるのですが、それに関してはどういう認識でいればいいですか。 また、2025～2028年が全部違うページとがあるのですが、そちらはどうでしょうか。

梅内会長	事務局どうでしょうか。 もしよろしければ、平野委員に具体的なページを言っていただいて、その見方をお答えいただこうかと思います。
平野委員	まず統一になっているのは、例えば 25 ページ、対象児童数が 2026 年から全部同じなのですが、どう考えればいいのでしょうか。
保育課	お答えいたします。 2026 年度と 2027 年度、2028 年度が同じということですが、当初予算版ですので、保育ですと全員が全員 4 月から入所するわけではなく途中入所もありますので、前年度の 10 月の児童数をもとに予算は組んでおりますが、2027 年度、2028 年度が何人になるかというのはまだ判明していない状況ですので、2026 年度と同じ数字とさせていただいております。以上です。
平野委員	人口減少しているので、それを想定して出せないのでしょうか。それによって予算は大方出てくるような気がします。その人口減少に対して今の経過があるので、同数だと人口維持できていると思ってしまいます。新しい総合戦略資料見ても、人口は右肩下がりで減少していますし、出生率も下がっていると思うので、同数というのは気になりました。
保育課	平野委員のおっしゃるとおり、子どもの数は減っております。 保育を利用する児童数は減ってはおりますけれども、利用率は上がっている状況です。 低い年齢から預ける世帯が増えているというのも事実でありまして、そのあたりを加味して計画等も作っておりますけれども、実行計画に関しましても、毎年毎年その時点で判明している人数を反映して、皆様にまたお示ししていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。
平野委員	ありがとうございます。 先ほど言ったように、K P I の設定が正直設定になっていないと思っているので、ゴールの数と目標の手段の数と、結果の数の示し方がよくわかりません。 この事業に関してではなく、全体的な話です。なので、K P I の設定は今、年度切り替わるところですけど、正直 7 割方やり直した方がいいのではないかというのが忌憚のない意見です。
梅内会長	はい。平野委員、ありがとうございました。 先ほど事務局の方からもありましたとおり、全体的な K P I の設定の見直しというのも含めまして、今後の作業の中の一つに入れていただけたと思います。 また改めてまとめ次第、委員の皆さまに共有いただけたと思います。

島野委員	よろしく願いいたします。 はい。それでは何か細かいこととかでもいいので、何かご質問等ありますでしょうか。 はい、島野委員よろしく願いします。 私自身は、すべての評価をAにしてほしいと言っているわけではなくて、高い目標を立てればそれなりにBやCになるものもあると思います。達成できるように低い目標を立てれば、確実にA評価になると思いますが、そういったようにシュリンクしたような施策にならないようにした方がいいと思います。 Aが並べばいいというわけではないと思っていますので、是非そこはチャレンジングな目標を設定していただいて、どう頑張ったかを報告してもらった方がいいのかなと私自身は思っておりますので、そこは誤解のないように、訂正させていただきたいと思います。 せっかく基本目標1と2の議論ということなので、別の話をさせていただきますが、委員を何年もやらせてもらっていて、いつも同じことを言わせていただいているのですが、毎年改善していただいているなどというのは見ていてわかります。 学校教育の関係ですが、昔は学校に入る前の施策というのは結構たくさんあって、学校に入ってから施策がすごく少なかったもので、そういったことを申し上げていたのですが、だいぶ学校に入ってから施策も増えているというのが見ていてわかるので、私もコメントした甲斐があったと思っています、感謝申し上げます。 学校の話なので予算がつかなくてもできるところが結構あるのではないかと考えておりまして、予算があるものに対して書かれておりますが、予算がないものについても教えていただけるとうれしく思います。 学校では特別授業のお手伝いもさせていただきましたので、委員の皆さんも何か貢献できるのであればしていただけるといいなと思っています。以上です。
梅内会長	島野委員、ありがとうございます。 今の島野委員のご意見、コメントに何かございますか。 特によろしいですか。 では、ご意見として次にまた取り入れていただければと思います。 ありがとうございます。 では、他に委員の皆さんからご質問、ご意見ありますでしょうか。 平野委員から願いいたします。
平野委員	15 ページの結婚支援事業なのですが、2025 年度の事業費は年間 637 万 1,000 円という見方で合っていますか。 内容を読んでいくと、目的が結婚を希望する人が希望する時期に結婚し、将来の家庭生活を見据えた選択ができるよう、出会いの機会の創出を通じて結婚を希望する市民の縁を結ぶ取組を推進すると書いてあって、結婚相談所を毎週火曜日午後 1 時から 4 時に開設して相談員 2 名で

	やられているようですが、そもそもターゲットの年齢層はどのくらいの方ですか。
市民課	ご質問ありがとうございます。 まず一点目の事業費のことですが、ご認識のとおり、例えば 2025 年度の欄ですと、結婚相談所の開設、近隣五市結婚相談員との連携、結婚新生活支援事業の 3 事業に係る経費が合計で 637 万 1,000 円となります。 結婚相談所の登録者のターゲットというところでは、市の規定上は特に年齢層の規定は設けておりませんが、県でやっている結婚支援のアドバイザー事業等で相談した中で、結婚相談をより活性化させるためには、できるだけ若い世代を増やした方がいいとの助言もあったことから、SNS での周知等若年層に届くような周知方法を検討してまいりたいと考えております。以上です。
梅内会長	はい。ありがとうございます。 平野委員よろしいでしょうか。
平野委員	ありがとうございます。 事業費の読み方が合っていてよかったです。 あわせて質問なのですが、若年層を増やしていくというお話でしたが、単純に 20 代・30 代の方をイメージしていますが、例えばその世代の方で毎週火曜日の午後 1 時から 4 時に相談に来られる方はいるのでしょうか。 また縁を結ぶ取組をするというのが相談件数で終わってしまっているのですが、ゴールはそれでいいのでしょうか。
市民課	ご質問ありがとうございます。 現状、結婚相談に登録をしている方の年齢層は 40 代から 60 代の方が多く、なかなか若い世代の方が増えず、実際に毎週火曜日に相談に来られる方が大体平均で 1 人、2 人となっており、若い方というのは来ないような状況です。 結婚相談所における相談件数というものを目標に設定しているというところについては、なかなか結婚というものは、個人の考えがあるものですので、成婚者数といったものを目標に設定するのは難しいというところで、その中で出会いのきっかけをどのくらい広げていけるかというところで、相談件数を目標に設定しているところです。 また事業の内容によって、必要に応じて目標設定は今後も柔軟に考えていきたいと思っております。 以上です。
梅内会長	ありがとうございます。 平野委員よろしいでしょうか。
平野委員	ありがとうございます。

	まず目標の設定は数値で出しているもので、例えば今の話だと、若年層の登録件数が下がっているというのが書いてあったと思うのですが、そうであれば、年齢層だけでいいので、その相談件数などにすべきだったのではないかなと思いました。 以上です。ありがとうございます。
梅内会長	はい、平野委員ありがとうございます。 その他、ございますでしょうか。 笹生委員、よろしくお願いします。
笹生委員	よろしくお願いします。 私からは 16 ページの子育て支援についてですが、富津市の場合、すすくギフトや 19 ページにあるファミリーサポートセンター事業など大変手厚い事業を行っていると思うのですが、今年第一子を出産されたお母さんや近隣市のお母さんとお話する機会があり、近隣市と比較して、富津市のこの事業や子育て支援に関しては大変手厚いと、市内で今年お子さんが生まれたお母さんはとても助かっているというお話を聞いています。ただ事業自体を知ったのは、出生届を出すときや、母子手帳の申請時であったということを知ります。妊娠されている方に関しては、そういった手続きの際にこの事業などを知ることができると思うのですが、以前にこの会議で転出に関して、世代や性別について詳しい数字が出ていたと思うのですが、こういったことを富津市ではやっているというのを結婚前の方々が知ることによって、転出も若干なりとも抑えられるんじゃないかと思ったので、そのあたりの PR の方はどのようにされているのでしょうか。
梅内会長	はい、笹生委員ありがとうございます。 担当課の方からご回答をお願いします。
こども家庭課	ご質問ありがとうございます。 先ほどお話いただきましたように、近隣市に比べましても、富津市の子育て支援として実施している内容につきましては、自信を持って提供している部分がございます。 実際に子育てをしている保護者の方からも、特にすすくギフトについては非常に感謝をされていると認識しております。 おっしゃられるように、妊娠・出産に伴ってこういった制度があるということをお知りになるという保護者の方が実際には多いところでございますが、結婚・妊娠の際にしっかり PR をさせていただいているので、そういう結果につながっていると思っております。一方でまだ妊娠・出産に至っていない方々については、ご存知ない方もいらっしゃるということは認識しております。来年度においては、企画政策部の方と連携して、ライフステージに応じて、こういった子育て支援があるのかというようなことをわかりやすくパンフレットでお示しをする中で、移住者の方々へも PR をする、あわせて富津市に住んでいてこれからそういった

	ライフステージを迎える方々に対してもアピールできるような内容のものを作っていかうということで、来年度予算に計上しているところです。私からは以上でございます。
梅内会長	はい、ありがとうございます。 笹生委員よろしいでしょうか。
笹生委員	はい、ありがとうございます。
梅内会長	はい、ありがとうございます。 では、次に岡田委員よろしくお願いします。
岡田委員	上から物を言うような言い方になってしまうのですが、すごく健全な議論がされているなと思いました。去年も同じこと言ったと思うのですが、このような議論は「はい、やりました」という感じが多いと思うのですが、そうではなくてきちんとかみ合った議論、指摘がされていてすごいと思いました。 K P Iについてどうか、というところになると思いますが、おそらく平野委員がご指摘されているところは、K P IというよりK G Iに近づいているのかなと感じました。K P Iはもう一歩手前のところを見に行くので、そういう意味ではK P Iが何か、K G Iが何かというのは、難しいですけども、ゴールするための一歩手前の指標を押さえにいくという意味では、あながちずれているとは思わなかったのですが、ゴールへのK P Iとの距離が長いと、ご指摘のようにK P IがK G Iと遠くないですかという意見が出るのは、なるほどと思いました。 また、笹生委員に同じような意見を出してもらっていたので、質問というよりもただの意見になってしまいましたが、今回、基本目標1の子育て出産あるいは地域への愛着といったところで、移住施策の中でとても大事な部分、特に移住、二拠点居住といったところで考えると、房総全体でみるとそれなりのマーケットがあって、その中で取り合いをしていくという認識は皆さんお持ちだと思います。 正直に言うと、数年前までは政策的に房総は負けているのではないかなと思っていたときがありました。 ここ数年は、子育て施策については勝ち始めていて、数字に出てくるのは数年後だと思うので、これから成果に結びついていくんだろうなと楽しみにしています。 ただ、限られた予算の中だと思うので、どうメリハリをつけるかだと思います。他の自治体がやっていることと同じことだとやはり地理的に勝ちにくいと思うので、思い切って富津の子育て施策のセンターピンを立てる、これは他はやっていないよねという看板政策を移住者にアピールしていくことが大事だと思います。あれもこれもやればいいですが、そのような予算は到底ないと思うので、センターピンをたてることで外からの検討者に対してもより伝わりやすくなるのかなと感じました。

梅内会長	はい。岡田委員、ありがとうございました。 ご意見ということですので、参考にしていただければと思います。 石村委員お願いいたします。
石村委員	よろしくお願いいたします。 ページで言いますと、80 ページ、81 ページの内裏塚古墳についてお話をさせていただきます。 私どもは、地域を好きになってもらうため、フリーマガジンを作っております。 昨年国指定となった内裏塚古墳群を特集しまして、先だって教育委員会や木更津法人会富津支部の皆さんと一緒にツアーに参加した様子などを掲載させていただきました。 先ほども島野委員から予算がないもの、そういったもので貢献できることは何かというお話もありましたが、私も今日この資料をじっくり拝見させていただいて、予算がついているなと思いました。 ただ、潤沢ではないのだろうと思った時に、やはり地域の皆さんの力を集めて、何か一つの形にしていくようなものも並行してやっていった方がいいのかもしれないと考えました。 国指定になった7基あわせて、この富津市の古墳群がどれだけすごいのか、子供たちや地域の皆さんにもよくわかってもらうことも必要だと思いました。私も富津市で生まれ育っていますが、内裏塚古墳に上がったのは初めてでした。古墳の周りの溝が排水溝じゃなくて濠であるということや、夏になるとボウフラが湧いて、蚊が発生して苦情がくること、濠は水溜りではなく古墳の中の一つのものなどということなども、私達も一緒に回って初めてわかったような次第でして、これをもっともっと皆さんに伝えていって、それこそシティプロモーション、このまちに誇りを持って、富津市はすごいんだと市民の皆さんが外に発信できるようなシステムを、市のこの計画プラスアルファとして、民間の活力も活用してやってみたらどうかと思いました。 今回私どもが作ったものは入門編でございまして、まだまだなのですが、機会がありましたらこういった形でどんどん伝えることができればいいなと思っております。 そういった形のボランティアの組織、それから地域を守る組織や団体みたいなものをもっと作れたらいいなと今日は思った次第です。以上です。
梅内会長	石村委員、ありがとうございます。 この意見に対して、何かございますか。
生涯学習課	ご意見をいただきありがとうございました。 また、かずさFMさんのフリーペーパーの方で取り上げていただき、ありがとうございました。 内裏塚古墳群につきましては、先ほどご意見をいただいたとおり、昨年度、内裏塚古墳に加えて7基の古墳が国指定に追加されまして、今後

	この古墳群をどのように保存・活用していくかという保存活用計画というものを市の方で立てまして、今ご意見いただいたように、市の教育施策や地域活性化にどのように繋げていくのか、その材料の一つとしてこの古墳群を生かしていくことが大切だと思っておりますので、地域のボランティア団体さんとも連携を図り、様々なところでも古墳群を活用していければと思っております。以上でございます。
梅内会長	はい。ありがとうございます。 石村委員、よろしいですか。
石村委員	はい、ありがとうございます。 頑張りたいと思います。
梅内会長	ありがとうございます。 議論がだいぶ活発になっておりまして、このあと第3、第4の目標についてのご質問があると思いますけれども、どうしても今の段階で第1、第2目標の中でお伝えしたいことはございますでしょうか。 では、平野委員お願いします。
平野委員	KPI、KGIというのは、確かに議論としてはあると思いますが、それにしても目的に対しての結果の表示は改善していただきたいと思います。 16ページの笹生委員からお話があった子育てのところで、すすくすくギフトの内容というところで、そこも同じように予算が2026、2027、2028年と同じようになっているので、そのあたりはステップアップ式で変えていってもいいのかなと思いました。また、ギフトの内容の改善などをどのようにやっているのかということ、あともう一点が手段のところで、チャイルドシート貸付事業や赤ちゃん休憩室事業という面白いと思う事業があったのですが、こちらの具体的な数字、例えばチャイルドシートを貸し出した数などは出ていますでしょうか。
こども家庭課	ご質問ありがとうございました。 いくつかご質問いただいていると思いますが、まず1つ目としまして予算額というところで、2026年度以降は同じ値であるという点ですが、これは先ほど保育課から説明があったように市では予算の都合上、同じ金額で記載しているということでご理解をいただければと思っております。 先ほどのお話の中でもありましたすすくすくギフトについてですが、その金額については2025年度においては月額4,000円と記載がございまして、2026年度以降はこちらを4,500円として同じ金額を記載しておりますが、こちらについては制度拡充を図らせていただきました。 理由といたしましては、いわゆる物価高騰への対応というところでございますが、カタログ掲載商品の多くが春以降も値上げが予定されており、おおよその金額ベースで申し上げますと、80%がオムツ関連の商品を

	注文されているという状況となっております。各メーカーいくつか展開しておりますが、1パックの価格が2,100円前後になるということが予想されておりましたので、2,000円を超えてしまうとオムツ2パックを注文した場合、はみ出してしまう部分が出てくることが想定されたため、この物価高に対応して子育てを一層支援しようということで増額を図ったところでございます。 製品の展開といたしましては、オムツが8割というところですが、それ以外に粉ミルクをラインナップ展開してほしいというような要望もございます。現状ラインナップができていないため、委託事業者の方とも協議を重ねて、今後改善を図れるようにしてまいりたいと考えております。 また、チャイルドシート、赤ちゃん休憩室の実績値に関するご質問をいただきましたが、今、手元に詳細な資料がなく大変申し訳ございませんが、チャイルドシート貸付事業については大変好評で、今年度当初の段階で新生児用として貸し出しているチャイルドシートが12台ございますけれども、常に12台借りられている状況です。 今年度慢性的にそういった状況が続いておりましたので、12月に追加で6台新たにチャイルドシートを購入して、貸し出しをしているという状況でございます。 それから赤ちゃん休憩室についてですが、こちらは必要な設備を整えていただいた民間事業者に対し、設置に必要な経費を補助するという事業でございますが、こちらについては今年度実績がございません。 市内の商業施設ですと、新設の際に既にオムツ替えの台を設けているということが一般的になってまいりましたので、なかなかご利用いただけていないという状況でございます。 こちらについては引き続き周知を図りながら実施してまいりたいと思っております。以上でございます。
平野委員	ありがとうございます。 チャイルドシートの件は素晴らしいなと思ったのと同時に、チャイルドシートの数が、事業成果に書いていないのがもったいないと感じました。 おそらくA評価だと思うのですが、それが書いていないのはどうなのかというのと、逆に休憩室はD評価だと思うので、事業としてやるのであれば改善をするべきところだと感じました。 ありがとうございます。
梅内会長	平野委員、ありがとうございました。 それでは基本目標3、4が残っておりますので、一旦終了としたいと思いますが、いかがでしょうか。 それでは基本目標1、2については、これで終了とさせていただきたいと思います。 では、担当の方も入れ替えになりますので、右前の時計で11時25分まで休憩とさせていただきたいと思います。

	ありがとうございました。 ・・・休憩・・・
梅内会長	それでは 11 時 25 分になりましたので、引き続き会議を進めたいと思います。 基本目標 3 以降になります。具体的には 85 ページ以降になりますので、実行計画の中から何かご質問ございましたら、各委員からいただければと思います。いかがでしょうか。 はい。山内委員よろしくお願いします。
山内委員	よろしくお願いいたします。 108 ページの道の駅整備検討事業についてですが、自己評価のところに「道の駅整備検討委員会」を設置した、「富津市道の駅基本方針」に示した内容の具体化に向け事業を推進していくと記載があります。この道の駅基本方針は令和 6 年 2 月に策定されていると認識しておりますが、先ほどからの議論にあったように総合戦略にあるような形で、移住・定住といった観点が必要なのかなと感じた次第ですので、そういった視点での検討を今後は是非して行ってほしいと思いました。それともう一点、122 ページのゼロカーボンシティの実現についてですが、こちらの事業費が 2025 年度ですと 631 万円となっております。一方で事業成果の方は、脱炭素化促進事業補助件数が 27 件という実績で、目標値が 40 件となっております。 実績 27 件というのは、631 万円に対してどの程度実行したのかというところを教えていただいて、先ほど K P I の設定というのもございましたが、この 40 件というのもその事業費に対する執行割合としていくというのもいいのかなと思っておりますので、そのあたりも教えていただければと思います。
梅内会長	山内委員、ありがとうございます。 道の駅整備事業と地球温暖化対策 2 つご質問いただいたと思います。 それでは、1 つずつご回答いただければと思います。
政策推進課	よろしくお願いいたします。 道の駅についてご意見いただきましたので、お答えいたします。 移住の視点からというお話がありましたが、確かに道の駅につきましては、全国に様々な内容の施設がありまして、ただ、道の駅の必須機能としまして、情報発信機能というものがございます。 設立当初は交通情報や災害情報を発信する機能は必ずつけなければいけないこととなっております。 今現在は、カーナビやスマートフォンなどの普及で交通情報などは把握できますが、その代わりに、例えば地域の情報とか移住の情報の発信など、そういったものも情報発信に含まれておりますので、そういった

	ことも今後道の駅をつくるにあたって内容に入れていければと検討しておりますので、よろしくお願いいたします。
山内委員	ありがとうございます。
梅内会長	はい。では、次にゼロカーボンシティの件についてお願いします。
環境保全課	ご質問ありがとうございます。 ゼロカーボンの補助金の件ですが、2025 年度の金額としては 198 万 8,000 円となっております。 目標値を下回ってしまいましたので、引き続きホームページや広報紙などを含めて周知に努め、皆さんに利用いただけるようにしていきたいと考えております。以上でございます。
山内委員	ありがとうございました。
梅内会長	はい。ありがとうございました。 その他ご質問ございますでしょうか。 はい、川名委員お願いいたします。
川名委員	ページで言うと 86 ページになります。 地域経済の活性化や雇用の創出という観点でいうと、創業者に対するサポートというのは必要不可欠であるものと考えています。 事業成果のところで言うと、創業支援セミナーの参加者が延べ人数 90 人でいうことで、市内、また市外からもセミナーに参加している方がいらっしゃると思うので、それだけ創業について興味を持たれている方がいるというのはいいなと見ていたのですが、一方でいくら市の方が創業をしてくださいと言っても、あくまで創業するかは創業する側が決めることなので、この貸付件数が 0 件だとか、創業者数が目標 9 件に対して 5 件というのはやむを得ないところだとは思っております。ですが、今後ますます創業しやすくなる施策の一つとして、参考資料の市長の市政方針 15 ページに新たに 2026 年度から「あなたのチャレンジサポート！創業支援等事業補助金」というのが開始されるということで、記載があります。この補助金について、どのような要件に当てはまったらどれぐらいの補助金が出るのかなどの具体的な内容と、補助をすることによって今後どういった効果を見込んでいるのか、お答えいただければと思います。
梅内会長	ご回答をお願いいたします。
商工観光課	ご質問ありがとうございます。 日頃より市の制度融資に関しまして、ご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

	まず、補助金の具体的な内容についてですが、対象が創業と事業承継を行う方への補助金となっております。 一事業者、一個人事業主あたり 25 万円を上限に、会社設立時に司法書士や行政書士、中小企業診断士といった専門家へ支払う報酬費用やパンフレットの印刷、看板制作などの広告宣伝費用について、補助対象経費の 2 分の 1 まで補助するという制度でございます。 想定される効果についてですが、創業を行った後や事業承継をした後の支援というのは国や県、専門機関で様々あるのですが、創業する前の支援がなかったことからこの補助金を開始することとしたため、創業する方や事業承継する方が、まずこの補助金を使って前向きに創業等について考えるきっかけになること、また商工会と連携して経営計画、事業承継計画の作成を行うことによって、スムーズな事業開始、事業移行になるものと考えています。 また事業を開始した後でも、商工会から経営指導という形で伴走支援も行いますので、事業の継続を図ることができるものと考えております。以上です。
川名委員	ありがとうございます。 事業者が増える、増えるだけではなくいかに継続して富津市でその事業を続けていっていただけるかということが本当に大事なところだと思うので、我々金融機関も今後市と連携して取り組んでいきたいと思います。ありがとうございました。
梅内会長	はい、ありがとうございます。 その他の委員からご質問ございますでしょうか。 はい。小嶋委員お願いいたします。
小嶋委員	122 ページのゼロカーボンシティの実現のところで、私がずっと富津市に住んでいて思っていたのが、リサイクルにつながる缶やペットボトルなどについて、富津市では資源ごみの回収は有料となっています。他の近隣 4 市ですと無料で回収している自治体もあるのですが、富津市としても資源ごみ回収を無料にし、半透明の袋に入れて出せるような仕組みにならないものかと思っております。そのような計画があるのか、また改善ということについて検討されているのかをお聞かせいただければ幸いです。
梅内会長	はい。ありがとうございます。 この件についていかがでしょうか。はい、お願いします。
環境保全課	ご質問ありがとうございます。 現在資源ごみのごみ袋は有料となっております。近隣 4 市では、無料で回収しているところもございます。現時点では、無料化等の検討はしておりません。以上です。

小嶋委員	今後いつ頃に無料化になるという計画などは特になのでしょうか。
環境保全課	はい。現時点ではございません。 引き続き、他市の状況を注視していきたいとは考えておりますが、具体的な計画などはございません。
小嶋委員	ありがとうございます。
梅内会長	ありがとうございます。他にご質問ございますでしょうか。 岡田委員、お願いいたします。
岡田委員	冒頭で、総合戦略にデジタル技術を活用した取組を追加したというお知らせをいただきました。総合戦略に取組として追加されたということは、どこかの段階で実行計画にブレークダウンされて政策に落ちていくということでしょうか。 もう一つは感想ですけれども、今回、外部人材を活用するとのことで、起業人というお話がありました。私の会社でも起業人を派遣しており、私は来年、九州の某都市に起業人として行ってまいります。また、私自身が兵庫県伊丹市の外部人材としてデジタル戦略推進本部補佐官を務めており、また神奈川県DXアドバイザーとして33市町村のDX推進をやっている立場でもあります。外部人材として使われる側の人間として6～7年くらい経験がありますが、外部人材はお客さん扱いをすると、何の役にも立ちません。起業人だと週3日くらい勤務すると思うので、お客さん扱いしなきゃいけないような偉い人呼んでくるよりも、現場のことがわかる足腰強い人を連れてきて、是非一緒になって汗をかいてもらって、富津市のデジタル化が進んでいけばいいなと思いました。
梅内会長	ありがとうございます。 それでは新規事業の件について、お願いします。
事務局	お答えいたします。 デジタル技術を活用した取組の記載は、第3期総合戦略から新たに追加をしておりますが、デジタル技術を活用した取組の「市民向けサービス」、「行政事務の効率化」、「地域課題の解決」の各取組については、既存の事業であっても、デジタル技術を活用しているものがございますので、実行計画の個別の事業と総合戦略がリンクしているといえますか、個別の事業と両輪で、積極的にデジタル技術を活用していくという趣旨でございます。 もう一つの、地域活性化起業人につきましては、来年度予算で起業人を活用していくというところでありますが、当初予算版の実行計画に現在掲載はしておりませんので、今後どのように取組を掲載していくのかを担当課と検討してまいります。以上でございます。
岡田委員	ありがとうございます。

梅内会長	ありがとうございます。 その他の委員からもご質問ございませんか。 島野委員、よろしくお願いします。
島野委員	先ほど新規事業のことがありましたけれども、新しく会社を興した方のために、融資だけではなく、市として無形の貢献をしてさしあげるの がいいのかなと思っていて、例えば新規で事業を立ち上げた企業が市の 入札などに関わるときに、先ほどの創業支援等事業補助金を利用して起 業していた場合に、今後市で事業を継続していくことへの支援のひとつ として、ポイントを加算するなどということができないかと思いました。 また、以前から富津市のオープンデータについては、文化財など良さ そうなものがたくさんあります。所有者の方にはご迷惑なのかもしれま せんが、ご迷惑でないものに関しては、そういうものを少し公開するな ど、所有者の方の商売になるようにしてさせてあげるということができ るといいのかなと思いました。例えばお寺さんが観光客を誘致して地元 にお金を落としていく仕組みなど、道の駅以外でも何かお金をかけず にできることをご検討いただければと思います。よろしくお願いします。
梅内会長	はい、ありがとうございます。 では、2つご意見がありましたが、1つずつご回答をお願いいたしま す。
商工観光課	ご意見ありがとうございます。 入札時のポイントなどの支援については、今後検討していけたらと思 います。以上です。
梅内会長	2つ目のご意見についてはいかがでしょうか。
生涯学習課	はい。2つ目の文化財についての部分ですが、なかなか公開が難しい ものも多いのですが、市の方でデジタルアーカイブという形で、文化財 をスマートフォンなどからデジタル図書館や博物館という形で公開して いきたいと考えております。現地に出向いてというのに加えて、気軽に 文化財を閲覧できるような仕組みを構築していきたいと考えております。 以上でございます。
梅内会長	はい、ありがとうございます。 島野委員よろしいでしょうか。
島野委員	はい、ご検討よろしくお願いします。 感想として、デジタルアーカイブというのはとてもいいと思うのです が、いかにお金を落としていただくかというところで、部局の壁を越え ていただいた方がいいかなと思いました。よろしくお願いします。

梅内会長	はい、ありがとうございます。 その他、ご質問ございますでしょうか。 平野委員、お願いします。
平野委員	質問させていただきます。 複数同じような記載があったのでそれも含めてなのですが、99 ページの内容を読んでいくと、観光ガイドブックの更新・増刷があったりするのですが、印刷物というのは刷ってなくなったら増版するというのが通常だと思いますが、どのくらいでなくなっているのかというのがわかりませんでした。 また、更新とありますが、私も日頃ラックに入っているのを読んでみたりしますが、そもそもやっていないお店が載っていたりして、そういったものは本来更新されてしかるべきだと思うのですが、富津市は割と更新がされていないものが多いというのが正直な感想です。計画に更新とあるので、どのように更新をされていくのというところと、実際印刷物がどのくらい減っているのか認識はされているのか伺いたいです。
梅内会長	はい、ありがとうございます。では、お答えをお願いします。
商工観光課	ガイドブックにつきましては、各年で作成をしているところですが、冊数の記載がなかった点につきましては、すぐに数字をお示しすることができず申し訳ありませんが、最近では年度内に在庫が無くなっていることも多く、増刷を重ねているような状況でございます。 次に更新というところについてですが、おっしゃるとおり観光情報は古い情報が多いということに関しては、タイムリーな話題を提供していけるようにということは意識をしてやっております。 最近では、ガイドブックへの掲載については、QRコードを表示してインターネットとつながるような形にしております。要は古い情報も載っておりますが、新しい情報も見られるようにするという仕組みも取り入れております。 富津市が作っているパンフレットについては、そういったように更新していけるのですが、観光事業者さんに作成いただいているものについては、そういったご意見もお問い合わせ等でいただいているところですので、事業者の観光情報発信力を底上げしていくというようなことも観光支援としての課題だと考えております。
平野委員	ありがとうございます。 お話いただいた内容で単純に気になったのが、おそらく税金使ってやると思うので、なんで減っている数がないのかということでした。 また、更新については紙媒体とWeb媒体を比べると、更新頻度は基本的にWeb媒体の方が早いということだと思います。 だんだん紙が読まれなくなるという時代で、同じ数を印刷してもしかたがないと思いますし、どのようにコストパフォーマンスを上げていくのか、そこを改善した方がいいのかなと思いました。

	先ほどから出ている観光関係のところで、当然ですが、市の中で何か落としてもらおうというお話が出ていると思うんですけど、100 ページと 101 ページのところで、訪日外国人観光客の受入態勢を整えるを書いてあったり、トイレの改修等いろいろと書いてあるのですが、101 ページの事業内容のところにもトイレの清掃委託という項目があったり、かぶっている内容がある中で、どのように違いを生み出していつているのかということと、富津市にいと、公共施設にあるトイレが素晴らしいほどきれいだとは言われないなと思っていて、私も娘がいるので公園に行くと、その公園のトイレはきれいなのかというのを見るのですが、皆さんはどう思われていますか。 改善したいのであれば、改善する方向で予算を付ける方がいいと思うのですが、そのあたりはどう考えているのでしょうか。
商工観光課	ありがとうございます。 まず、事業シートの中でトイレに関する記載が複数あるというところですが、内容としてはトイレの新規整備のことなのか、維持管理のことなのかといった違いががございます。 観光地の中で必要なものというところで、駐車場などいくつかある中で、やっぱりきれいなトイレがあることというのは観光地の魅力の一つだと認識されているところがございますので、そこについては課題であると捉えております。 具体的なことを申し上げますと、金谷地区において外国人観光客が増加している中で、繁忙期になるとトイレ不足というご意見をいただいているところがございます。観光客の受入態勢づくりとして力を入れてやっておりますので、トイレ問題については課題だという認識を持って進めていきたいと思っております。以上でございます。
平野委員	ありがとうございます。 そうであれば、100 ページで言うのとトイレをいくつ改修したか、どのくらい作ったかを記載してしかるべきではないかと思います。よろしくをお願いします。
梅内会長	はい。ありがとうございます。 その他ご質問はありますでしょうか。 島野委員、お願いします。
島野委員	今観光の話が出たので思い出したことを申し上げます。 ある県の観光相談所の方と話す機会があった際、外国人観光客の困りごとが2つあると聞いて、1つ目は言葉の問題、もう1つは決済の問題ということでした。最近はスマートフォンで翻訳ができるので、通訳がいなくても対応できるようになってきていると思います。ですので、個人商店の方などにスマートフォンで翻訳して話をするといった研修を受けていただくのはどうかという提案です。あともう1つはお金がかかりますが、やっぱり外国人の方の不満としてクレジットカードが使えない

	というのも結構あると認識しています。多分大きいお店は使えますが、小さいお店は全滅に近いほど使えないという気もしているので、例えば小規模の商店さんにクレジットカード決済のための補助金などを出して導入を推進するのはどうでしょうか。あと例えば、判定は難しいですが、外国人の観光客の決済に関しては、手数料を補助してあげるなど、そういったことで外国人に優しいまちにするのがいいのではないかと思いますので、ご検討いただければと思います。いろいろハード面で対策されるということが多いと思いますが、ソフト面も使われるとよいのかなと思います。 チラシに関しては、古くなるのは物理的なチラシの宿命なので、最低限の最新版をいろいろなところに置けるようにするとか、紙媒体をきっかけにして、中身は検討していくというやり方でもよいのではないかと思います。
梅内会長	ありがとうございます。それでは意見を受けていかがでしょうか。
商工観光課	ご意見ありがとうございます。 できることをどのようにやっていくのかというのがすごく重要なところで、そういったところをまずはしっかりやっていきたいと思っております。 デジタルによる決済に関しては、昨年度デジタル商品券を商工会と連携して、これからデジタル決済の推進というところを目標にやっていったこともあったようなのですが、なかなか導入が進まなかったというところもございました。引き続き検討をすることは有益だと思しますので、ソフト面の支援も含めて皆様のご支援もいただきながら進めてまいりたいと思います。
島野委員	ありがとうございます。 デジタル決済は手数料も結構高いので、それがネックなのだと思います。 だから、そう簡単には入れられないと思っていますので、このあたりをケアしてあげることができたらいいかなと思いました。
梅内会長	ありがとうございます。 だいぶ議論が活発で、時間も押してしまいましたが、何か皆さん目標3、4でどうしても発言したい方がいらっしゃればお願いいたします。 平野委員お願いいたします。
平野委員	いくつかのページに記載があるので確認なのですが、例えば99ページの事業成果にXのフォロワー数やInstagramのフォロワー数が2025、2026、2027、2028年度と書いてあるのですが、これは新規に獲得する数という認識でいいのかということが一点、もう一点が、92ページの農業次世代人材投資事業の事業成果のところで、新規就農者の認定数とあって、上の目的のところを確認していくと耕作放棄地の増加や後継

	者不足と書いてあるのですが、実際耕作放棄地がどのくらいの数あるのか気になったので、お願いいたします。
梅内会長	はい、ありがとうございます 担当課の方お願いいたします。
商工観光課	私の方からはインスタグラムのフォロワー数の件について申し上げます。こちらについては新規ではなく、現状のフォロワー数を記載しています。現状値が次年度以降の目標値を常に上回っている状況ですので、こちらについては上方修正をしてまいりたいと思います。以上です。
平野委員	修正というのは、100 フォロワー増やすという書き方に直すということですか。
商工観光課	実績値として 2,052 人フォロワー数があるような状況に対して 2025 年度は達成しているところですが、2026 年の目標が 2,000 人となっており、現状でも目標達成している状況ですので、目標を前倒しするということも含めて修正してまいりたいと思います。
平野委員	予算つけてやるということは、増加させていかないといけないと思います。当然維持管理も必要だと思うので、維持と増加は平行していかなければいけないと思います。なので、ここは全て A 評価になると思いますが、最初の方に話があったように達成できたから A 評価というのを見たいのではなくて、最終的にどこになるのかというのが必要だと思うので、そこは改善してほしいかなと思います。
梅内会長	はい、ありがとうございます。 はい、お願いします。
秘書広報課	秘書広報課の方では、その上の X と L I N E 公式アカウント友達人数を所管しておりますが、Instagram と同様に現状の登録者数となっております。今後もイベント等の対応をして、登録者数を増やしていけるような取組をしてまいりたいと考えております。
梅内会長	はい、ありがとうございます。 92 ページの新規就農者の育成の方で、ご回答いただけますでしょうか。
農林水産課	ご質問のありました、92 ページの耕作放棄地につきましては、毎年農業委員会事務局の方で農地パトロールを実施しております。 面積の具体的な数字については、大変申し訳ございませんが、今数字をお示しできる資料を持ち合わせておりません。

	ただ、いわゆる農業従事者の方が減少してきておりまして、それに伴い耕作されていない農地の面積というのは拡大してきているというのが実情でございます。以上です。
平野委員	ありがとうございます。 目的に増加と謳っているのも、現状どのくらいあって、この新規就農によって結果こうなったというのが知りたかったのも、リンクさせたような形で表記していただけるとわかりやすいかなと思います。ありがとうございます。 それから、99ページのSNS管理を複数の部署でされているのは、効率が悪いのではないかと思います。
梅内会長	はい、ありがとうございます。他はよろしいですか。 2人手が挙がりまして、岡田委員よろしくお願いします。
岡田委員	99ページですが、インスタ、X、LINEで管理部署が違うというのは、過去の経緯でそのようになっていると想像しますので、それが合理的であれば、そのままでよろしいでしょうし、いつか見直さなきゃねというような話であれば、検討されるのかなというように思いました。
梅内会長	はい。ありがとうございます。 アドバイスということでありがとうございます。
石村委員	観光客の話もいっぱい出ましたが、観光客に対するその防災の対応というところについては、どう考えていらっしゃるのかなと思いました。 観光客の誘致はもちろん大切なことで、どんどんこの富津市に来ていただきたいのですが、東日本大震災のときに観光客の皆さんが帰れなくなってしまって、地域の皆さんが炊き出しをしてくれたり、発電機を持ってきてくれたりとフォローしてくださったことがあったようです。地域の住民の皆さんの防災の対応がベースになると思うのですが、観光客に対するそういった対策について何か考えはあるのかなと思います、先ほど言い忘れてしまったのでお聞きしたいと思います。
梅内会長	ありがとうございます。何かその点ございますか。 お願いします。
商工観光課	ご指摘のありましたとおり、外国人観光客も含めた旅行者に対する防災情報の周知については考えております。こちらは防災上求められている事項でございまして、今回観光パンフレットの更新を進めているものにつきましましては、防災部門の方でデジタルにて公開しているハザードマップを観光ガイドブックの中にQRコードとして落とし込んで、旅行者も旅行地での防災情報や避難場所が確認できるような仕組みを取り入れるように進めております。

	外国人観光客も増えておりますので、観光施設に英語版の防災リーフレットを据え置くことも進めてまいりたいと考えております。以上でございます。
石村委員	ありがとうございます。 情報収集もとても大切なことですが、実際にその避難所で食べるものがなかったなどいろいろ問題があったみたいで、そういった予算というのなかなかとりにくいとは思いますが、今後進めていかなければならない課題なのかなと考えました。以上です。
梅内会長	はい、ありがとうございます。その他はよろしいでしょうか。 それでは特にご意見ないようですので、議題（２）第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画（2026年度当初予算版）について、終了したいと思います。
	５ その他
梅内会長	本日の議題について全て終了いたしました。その他に委員の皆様から何かございますでしょうか。 はい、島野委員お願いします。
島野委員	最初に総合戦略の見直しのところで、ＡＩの活用とかということが加えられているかなと思ったのですが、是非そこはもっと検討いただいて、働いている職員の皆さんが少しでも楽になるようにとか、あとテレワークとか、コワーキングスペースの件も書いてあったと思うので、そこをさらに発展させて在宅勤務をできるようにするとか、働きやすい職場にさせていただくのがいいかなと思います。というのも、やっぱり最近公務員の離職のニュースとかが結構気になっていまして、これは庁外に向けての施策だと思いますが、富津市も頑張って庁内でもうまくやっていただけるといいなと思います。よろしくお願いします。
梅内会長	はい。島野委員ありがとうございます。 その他はよろしいでしょうか。 それでは事務局から何かございますでしょうか。
事務局	事務局からお知らせいたします。 次回の会議につきましては、10月6日（火）の予定とさせていただきたいと考えております。 改めて通知をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。 以上でございます。
梅内会長	ありがとうございます。 それでは、以上をもちまして全ての議事を終了といたします。

	本日の議事内容は、会議録の確定をもって取りまとめさせていただきたいと思いますので、ご了承いただければと思います。 円滑な議事進行に長時間ご協力いただきましてありがとうございます。 では、議事進行を事務局にお返ししたいと思います。 よろしくお願いいたします。 6 閉会
事務局	ありがとうございました。 閉会にあたりまして、中山副市長がご挨拶を申し上げます。
副市長	・・・(挨拶)・・・
事務局	それでは以上をもちまして、令和7年度第2回富津市創生会議を終了いたします。 ありがとうございました。 (終了時刻 午後0時10分)

以上